

まえがき

地理学野外実習とは、毎年夏休みの後半に、自然地理学研究室で行われている長野県外での巡検及び個人の問題意識に基づいた調査を行う実習である。調査地に向かう前に、テーマや調査方法などを、事前指導会を通してしっかりと練る。巡検に使うしおりも学生の手作りで、各々割り振られた題目について調べ、文字に起こし、作成していく。調査地から帰ってきたら、獲得したデータを取りまとめ、事後指導会で各々の見解や進捗を発表、報告書を作成する。

2017年度地理学野外実習は、2017年9月17日から22日までの日程で行われた。例年同様、初めの2日間は巡検、その後の4日間は調査実習である。今回、実習地に選定されたのは山形県・秋田県である。

2017年9月17日午前9時、自然地理学研究室メンバー一同は鶴岡駅に会した。今年度の実習参加者は、水谷、荻野、小保田、明間、花里、早田、原、平澤、奥山、中村の学生10名と、引率の廣内先生を合わせた11名であった。

初日は致道館、余目、象潟などを見て回り、夜は「プラザホテル横手」に宿泊した。夕ご飯には横手焼きそばやじゅんさいなど、その土地ならではの料理、食材に舌鼓を打った。

2日目は台風による悪天候で、当初予定していた行程表通りとはいかなかったが、古代の城柵や、千屋断層、強首輪中堤などを見学した。道中ご当地名物である色鮮やかなババヘラアイスを食べ、調査実習の拠点である秋田市の「ホテル臨海」に向かった。

3日目からは、各自の個人調査が始まる。今回の調査テーマは、海岸地形や、防災意識調査、観光地理など、多岐にわたった。個人調査の期間は、毎晩ミーティングが開かれ、各々その日の成果を報告、翌日の予定や、調査地へのアクセスを確認する。野外実習は基本的に学部2,3年生、院1年生が中心になって行われており、学部4年生は実習中調査を行う学生のサポートをさせていただく。私も、2年生のヒアリング調査への同行や、4年生の海岸での掘削作業の手伝いをさせていただいた。自分の調査では聞くことのできない分野のお話を聞いたり、用いることのない調査方法を体験したりと、新鮮で充実した調査実習だったと思う。

さて、学生たちは長野に帰ると、先述した事後指導会を行い、授業などで忙しい合間を縫って報告書を仕上げた。アンケートデータやサンプリングの解析、イラストレーターの使用など、不慣れな作業も多かったことだろう。その努力を感じながら、本報告書を読んでいただけると幸いである。

最後に、調査にあたってお忙しい中、地図や資料の収集、ヒアリング調査にご協力いただいた各行政機関、団体、地域の皆様、会社や個人の方々に心よりお礼申し上げ、ここに感謝の意を表します。

平成31年2月18日

明間 奈津紀(信州大学自然地理学研究室OG)

2017年度地理学野外実習報告書X

秋田

【目次】

まえがき

男鹿半島北東部申川断層の活動度 1
水谷光太郎

プラントオパール分析を用いた秋田県沿岸・天王砂丘における古環境の復元 . . . 6
早田圭佑

八郎潟南岸における完新世以降の地形環境変遷 14
原知弘

洪水災害における住民の避難行動から考える自助・共助の在り方
—秋田市における平成 29 年 7 月 22 日からの大雨を例に— 21
花里哉歩

平成 29 年 7 月 22 日からの大雨による雄物川水系の内水氾濫実績 27
平澤 賢

観光客の視点で考える仙北市観光と田沢湖 39
奥山加蘭

大潟村農業のビジネス化への道のりと展開 47
中村祐希

あとがき